

【上野店ウインドー コピー案】

これまでも、そしてこれからも。

江戸時代、幕府に保護された寛永寺の門前町として発展した上野の地に、
名古屋伊藤家11代祐恵（すけよし）が「いとう松坂屋」を開いたのは、1768年（明和5年）でした。
にぎやかな上野は歌川広重の「名所江戸百景」に幾枚も描かれ、中でも「下谷広小路」は、
1855年（安政2年）10月の大地震で焼失した松坂屋の営業再開を伝えようとしたものと言われています。
この街で、今も変わらぬこの場所で、約250年。
松坂屋は、「シタマチ．フロント」の街開きを第二の創業と捉え、
このにぎわいを絶やさぬよう、新しい「シタマチ」文化を発信していきます。